



# IV-JAPAN

NEWS 【NO.2】 2004.6.15 発行

## <近況報告>

### ----- ヴィエンチャン職業訓練 -----

JICA 草の根技術協力事業として、縫製、理美容、調理の職業訓練 3 コースがヴィエンチャン特別市職業訓練センターにて始まりました。訓練生たちは目を輝かせながら、毎日新しい技術、知識を学んでいます。この事業では、初級、中級コースで4ヶ月間基礎を学んだ後、ジョブトレーニングコースとして6ヶ月間、ブティック、美容室、レストランを訓練生自身で運営し、実践を通してマーケティングについて学びます。事業終了の来年3月には、この訓練によってどれだけの卒業生が就職や起業できるか、今から楽しみです。



#### IV-JAPAN ラオス支援十周年記念コンサート

当会がラオス支援を開始して今年で十周年を迎えました。それを記念して4月8日ラオ・プラザホテルにてピアノ・ギター・ラオス民族楽器の共演コンサートをTSFが協賛して実施しました。ピアニスト川上ミネさん、ギタリスト沖仁さんとラオス人アーティストによる国境を超えた演奏が聴衆を感動の渦に巻き込みました。



ピアニスト川上ミネさんとギタリストの沖仁さん



左側富永代表（着物姿）と右から二人目TSF草野社長

#### 吉野貴美子さんより三菱パジェロ寄贈

5月に吉野貴美子さんより三菱パジェロが当会に寄贈されました。ここ数年でヴィエンチャンの道路事情は驚くほど改善されましたが、未だに整備されていない道路もあり、特に雨季スコールが降ると道路は雨水で溢れ出し普通乗用車では運転できません。三菱パジェロはそのような道路にも難なく通行でき、とても役立っております。また、シェンクアーンなど山岳地帯への出張にも大活躍です。

#### 埼玉県国際交流会より木工機具寄贈

3月23日に埼玉県国際交流会の事業により、株式会社多賀屋社長鯨井辰夫様が、彩の国さいたま国際交流・協力ネットワークに譲渡された木工機具がヴィエンチャン市に寄贈されました。この器具を使って、今年の9月より木工・家具職業訓練が開始される予定です。当会職業訓練、木工・家具コースの講師によると、この機具によって訓練生たちがより精巧な家具を製造する事ができ、また一度により多くの訓練生と一緒に学ぶことが出来ます。訓練生技術向上に大いに役立つだけでなく、訓練もスムーズに進めることが出来そうです。







## カノック奨学金便り



2月19日～21日の2日間にわたり、タイのノンカイ、サケオ合計3校の学校を訪問し奨学金支給生の生活状況や学校生活などを尋ねました。今回の訪問では1996年からの奨学金ドナーである当会インターン松島準之介が同行しました。訪問の報告書を書きましたのでご覧ください。

### 奨学金支給生を訪ねて

先日、7年ぶりにタイを訪問しました。高校生の時IV-JAPANのワークキャンプに参加した当時のタイはまだ発展途上の段階でした。今回の訪問では見違える発展を遂げたことが解りましたが、依然として農村と都市の経済格差は存在しています。1996年からカノック奨学金のドナーである私にとって、奨学金を支給されている生徒の声を直に聞くことはとても貴重な経験となり、奨学金の使途や援助のあり方についても今後の検討すべきことがたくさんあることに気づかされました。まず、訪れた1校はカンボジア国境に近いサケオ県に位置し、生徒全体の8割から9割が貧困層に属し、奨学金を必要とする生徒が後を絶ちません。その中から奨学金を支給される5人の生徒を選ぶことは非常に難しく、通常は5人支給生が選ばれるところを、この学校は10人の奨学金支給生を選考しました。選考基準は第一に生徒の家族の貧困度、そして成績によって選考されます。奨学金は一人1,000パーツ支給されますが、その内の500パーツはマッシュルーム栽培のプロジェクトに当てられ、生徒は残りの500パーツで教科書、文房具、制服などを購入します。資金5,000パーツで実施されたマッシュルームプロジェクトはとても興味深く、持続性の高い事業だと思いました。マッシュルーム栽培は湿気が多い雨季に開始され約6ヶ月間収穫でき市場で販売され、市場で得た収益の一部は生徒に還元され残りは翌年の回転資金のプロジェクトに当てられこれを持続させます。つぎにノンカイ県にある学校は5人の生徒がそれぞれ奨学金2,000パーツ支給され、その内1,000パーツは養鶏プロジェクトに当てられます。運良く今年は鳥インフルエンザが流行る前に全て鶏を捌いたため全く影響は受けず、その収益の一部はやはり翌年のために当てられます。それぞれの学校の事情によって奨学金の使い方に多少の相違はあるが、共通していることはプロジェクトの収益は翌年に還元するように奨学金をできるだけ効果的、且つ持続させようと工夫していることです。奨学金を支給されている生徒の親のほとんどは農業に従事していて、そのほとんどが抱えている問題はやはり農業が出来ない乾季時の収入源であり、都市への出稼ぎは依然回避の状況にあります。もっとも解決しなければならない大きな問題のひとつといえます。

今回の訪問で最も印象に残った事は、生徒達にとって奨学金が占める重要な役割です。生徒が一年で僅か1,000パーツの奨学金によって、自分は見捨てられていないということが認識でき、彼らが奨学金によって経済的には勿論のこと精神的にも支えられているのです。奨学金は生徒の将来に希望を与え勉強に対するモチベーションを高め、生きることへの糧に繋がっています。今回の訪問によって貧困に苦しむ生徒のために奨学金の必要性を強く感じ、また私たちにとって僅かなお金が彼らにとっては大きな支えとなるならば、そのお金の価値は私が普段費やすお金よりも何倍もの価値があるのではないのでしょうか。奨学金ドナーの寄付を募るとき生徒達の貧困状況を訴えがちになりますが、私はむしろ奨学金が生徒達にもたらす精神的な豊かさを強調してドナーを募るべきだと思いました。なぜなら私たちは現在の状況を嘆いて寄付するのではなく、未来を見据えて寄付するべきであり、そのためには先進国の豊かな人間が僅かな寄付をすれば全てが解決するのではないということをお前提に考えるべきだと思います。すべては経済的基盤の確立の上に成り立つことは明白であり、子供たち自身に現地故郷で生きる力を与えていくには具体的に我々に何が出来るのか、何を提案していけばよいのかをもう一度我々自身問い直していかなければならないと感じました。

文：松島準之介

## 2004年度カノック奨学金ドナーの方々(敬称略:2004年6月15日現在)

足立毅、飯田昌美、五十嵐香苗、石井清子、石黒進(3年分)、泉久子(3口)、伊東慶子、伊藤睦子、伊藤裕子、伊波美知子(2口)、今井京子、入沢恵子、岩月優子、ウイメンズ目黒、上倉寛子、上原道子、大久保芳子、大越博伸、大野歩・望、大野宏江、太田栄次(6口)、大谷彩、大橋国江(2口)、小川昭子(4口)、沖野和利(5口)、小田切智子、笠井喜美子、風間さく、片桐鈴子、片山純子(2口)、片山すみ子、金城幸一(2口)、金指五郎、金戸美知子、加村トク江、亀島裕子(3口)、賀元澄子、ガールスカウト大阪73団、ガールスカウト千葉45団、川合満喜子、木内美代子、菊池浩子、菊原享子、国仲ヒデ、栗原重夫、栗原敏子(5口)、栗林トセ、黒田芳則、小林佳代子、河野裕・慶子、込山まち子、西条喜子、坂根昭江、佐々木美樹子(2口)、佐藤文子、佐藤美津子(4口)、佐藤吉秀、座安きく子、塩川悠子、James.A.Cummings、嶋美喜子(4口)、白川誠之、城間照子、杉江美枝子、鈴木初子、外岡すず子、外間邦子 高石順子、高仲敬子、高原幸子、武居近子、谷本善江、田中えいこ(1口\*3年分)、田中誠吾、田中兼勝、田村福代、だるま会・飛翔会、丹羽稔、土屋多賀子、土屋祥二、土屋紀子、津本蓉子、徳永可久子、渡久地澄子、利根川恵子、中川重信(2口)、中村英一、中村江里子、奈良伊世、奈良幸衣子、根橋淑江、橋本多映子、長谷川達也(2口)、羽山陽子、原朗子、比嘉エリ子、平野口正晴、蛭間愛子、藤井清司、藤田カツノ、藤森修、古山三保(川口市立上青木中学校50期1年5組)、堀川チヨ(1口\*3年分)、増井千恵子、松島準之介、松田知、松本薫、松永順平(3口)、三沢純子(2口)、みどり幼稚園みどり会(5口)、宮里成子、宮下ひとみ、宮村肇(10口) 森典子、森田豊則、安村美知子、八木道子、吉野康幸、渡辺伊久子、渡三佳、宗像邦司

以上166名の皆様有難うございました今後とも宜しく願い申し上げます。残り54名のドナーの方が未払いです、子供達のためお早めをお願いします。

### 運営費、プロジェクト費、寄付等のドナー一覧(敬称略:2004年6月15日現在)

泉久子 14,000円 太田栄次 190,000円 尾嶋佐和子 90,000円 木内和子 10,000円 栗林重夫 13,722円  
栗林トセ 10,000円 小林明子 10,000円 斎藤グループ \$611 千葉有志 10,000円 渡久地澄子 320,000円  
富永幸子 500,000円、豊田利久 20,000円 羽鳥 50,000円 藤田畑枝 133,000円 雪山光恵 65,000円  
吉野喜美子 1,000,000円 東京ウィルライオンズクラブ 繁田恵美子 10,000円

誌面の都合上1万円以上の方のみ掲載させて頂きました、総合計57名皆様有難うございました。

※厚紙の締め切りの都合上、行き違いや当会の手違いでお名前を掲載出来なかった方がいらっしゃいましたら大変申し訳ございません。また使用済みテレカ、書き損じハガキのご協力有難うございました。今後ともよろしくお願い致します。



ベトナム国境、辺境の地シェンクアーン  
県の山岳民族モン族の子供たちにも奨  
学金が属しています。右側の女の子が  
着ているのがモン族の民族衣装です。



2003年10月に開始された小学校建設は2004年1月に無事終了しました。2月に行われた贈呈式に小学校建設のドナーである斎藤加代さんも出席されました。校舎完成により生徒たちも充実した学校生活を送れるようになりました。



区長代表と生徒達の記念写真



完成した校舎

## 幸子のラオス便り (NO.8)



### ラオスでも時代は確実に、ゆるゆると変化している

先口教育省の幹部職員と話していたときのこと。「現在の教員養成カリキュラムだと教科だけ教えて、先生自身に生活技能が身につけてない。自分が前政権時代に師範学校で学んだときは、教科以外に農業はじめ、養鶏、養魚等生きていくのに必要な技能が学べた。ラオスの大多数の人々は農村に住んでいるし、都市部でさえ自宅で野菜栽培、養鶏や養魚が可能なことから、学校でそれらに取り組みれば、子供たちに生活力をつけることができる。教員養成カリキュラムの変更を進言しているが、受け入れてもらえない。村では先生は学校以外でも指導者として期待されているのだから。」と、また今の若い先生は教育に対する意欲もないと嘆いていた。

この背景には、学生に人気の学部は、まず第1に留学コース、次に経済・経営、外国語、法律、工学等が続き、最後の最後が教育となっており、成績順で進路が決まってしまうという要因がある。教員に人気がないのは給料が安い（公務員ほどの職種も月\$15~20程度）、勤務地が僻地になること等が挙げられる。交通機関がなく、徒歩で山道を1時間掛けて通うのもざらだ。私は話の内容もさることながら、社会主義の国で堂々と革命前のほうが良かったと言える時代に変化していることに、とても驚いた。

新聞、テレビ、ラジオなどの各メディアも国営で、自由にものが書けない、言えないと、ジャーナリストが嘆いているのを聞かされている。そういえば98年ごろにエンターテナーの服装規定が新聞で発表されて驚いたことがあった。ステージでは男性は民族衣装か背広着用、長髪はだめ、女性は民族衣装か洋服でミニスカートはだめ、というものだった。今ではかなりセクシーなドレスを着ているし、髪も染めている人が一般の人でも多くなっていて、服装規定もなし崩しになってきているようだ。ラオスでは銀行以外の両替は禁止されているが、97年ごろまではたくさんの両替商が看板を掲げて堂々と商売をしていた。ある日、町の両替商が一斉に検挙され廃業に追い込まれたことがあった。このように、この国ではいつ何が起こるか予測できないから、服装規定の復活もありうるかもしれないが、確実にゆるゆると時代は変化しているのを感じる。(2004年5月28日)

## 第1回ラオス・ワークキャンプの参加者募集

内容：ラオスの首都ヴィエンチャン市郊外チャンパー村にて新築小学校校舎（垣根作り、整地等）の手伝い。及びチャンパー村の子供達や村人と交流（村泊）、ヴィエンチャン市にてホームステイ等。

期間：8月21日(土)～28日(土) / 事前研修：7月10日(土)～11日(日) / 事後研修：10月2日(土)～3日(日)

参加費：18万円（現地までの往復航空運賃、宿泊費、食費、報告書作成費等含む）

締め切り：6月末

## 第6回ラオス・スタディーツアー参加者募集

内容：日本文化紹介のボランティア（折り紙、書道、浴衣着付け、お花など）シェンクアーン・ジャール平原見学、バンフアイ（ロケット）・パニャナーク（竜神）見学（詳細は当会のホームページに掲載されている幸子のラオス便り No. 7をご覧ください）、カム郡及びノンヘト郡IVプロジェクト見学、マッサージ、ショッピング等。

期間：2004年10月23日(土)～31日(日)

参加費：23万円（現地までの往復航空運賃、宿泊費、食費等含む）

手配：ジャンピングツアー

主催：(株)ユニオン航空

※スケジュール等など詳しいお問い合わせはIV-JAPAN日本事務所までお願い致します。

また詳細はホームページにも掲載されていますので、そちらもご覧ください。

### <サポート会員募集>

奨学金ドナー及び国際協力費・運営費ドナーを随時募集しています。一人でも多くの皆さまのご協力を、宜しくお願い致します。

#### ① 奨学金ドナー

年1口 12,000円以上

#### ② 国際協力費又は運営費ドナー

※個人 年1口 3,000円以上

※団体及び法人 年1口 10,000円以上

申込方法：郵便振替にてご送金願います

口座番号：00140-5-537168 加入者名：カノック奨学金

### <編集後記>

4月より職業訓練事業の担当者としてラオスに赴任しました。ラオス事務所も日本人は富永代表一人で7年間運営していましたが、1月にインターンの松島くん、4月に私と日本人が3名に増え、4名のラオス人スタッフとともに事務所が大変賑やかになりました。日本で当会を応援してくださっている皆様の思いを感じながら、ラオスの人々のため、業務にあたっていきたくて思っておりますので、どうぞ宜しくお願い致します。(久保)

お陰様で、無事にニュースレターNo.2を発行することが出来ました。また5月26日より新しくホームページを更新しましたので、そちらもご覧ください。これからは出来る限り最新現地情報を皆様に提供できるよう努力いたします。ニュースレターは年4回ラオス事務所が発行する計画です。皆様の投稿をお待ちしております。今後とも宜しくお願い申し上げます。(松島)

## 【特定非営利活動法人 国際協力NGO・IV-JAPAN】

### 日本事務所

〒331-0058 埼玉県さいたま市西区飯田426

TEL:048-622-8612 / FAX:048-625-0271

E-mail: [iv-japan@cc.rim.or.jp](mailto:iv-japan@cc.rim.or.jp)

開所日：月水木金 10:00～17:00

### ラオス事務所

P.O. BOX 7920 Vientiane, LAO P.D.R

TEL/FAX: +856-21-26-1240

E-mail: [ivjapan@laotel.com](mailto:ivjapan@laotel.com)

開所日：月～金 8:00～17:00

<http://www.cc.rim.or.jp/~iv-japan/>